

公共工事における「本当に、地域の方々に喜んでもらえる地域貢献」とは

京都府土木施工管理技士会
福田道路株式会社
関西支店 工事部
監理技術者

北 添 慎 吾

Shingo Kitazoe

1. はじめに

片側1車線の国道（右折レーンなし）を拡幅し、右折レーンの設置と歩道を拡幅する工事の中で、これまでの道路工事のイメージアップや地域貢献を根本的に見直すことを課題として、取り組んだ事例である。

工事概要

- (1) 工事名 国道9号御来屋舗装工事
- (2) 発注者 倉吉河川国道事務所
- (3) 工事場所 鳥取県西伯郡大山町御来屋
- (4) 工期 H19.3.20～H19.12.20

2. 現場における課題・問題点

① 従来までのイメージアップ・地域貢献の課題

これまでの道路工事のイメージアップや地域貢献は、予算の単なる消化と、竣工書類作成のための中身の薄い、形骸化した内容の地域貢献が主流となっており、我々土木技術者のひとつの課題であった。

② 私の視点で考えた当地区の問題点

現場での作業を進めながら「当地区が抱える問題点はなんだろう」という視点で、当地域を見渡してみた。

現場付近は、47都道府県の中で最も人口の少ない鳥取県の中西部に位置する農村地帯であり、高齢者が多く子供の少ない地域である。また当地区は集落が散在しており、典型的な車社会で、近くの学校や保育園があるにもかかわらず、子供達が楽しそうに遊んでいる光景をほとんど目にする事がなかった。

また昨今は子供の外遊びが減り、体力低下や子供社会のコミュニケーション低下の問題が顕在化してきており、すばらしい自然を抱えた当地区においても同様の傾向がみられた。

3. 対応策・工夫・改良点

① 保育園との出会い

運動会の2週間前に、保育園から「工事のついでに園庭の土砂を撤去していただけませんか」という声かけがあり、園庭を見てすぐに提案しました。「工事で余った材料や土で子供たちに小さな冒険ができる遊び場を造りませんか」と。

保育士の方々は快く快諾していただき、早速イメージ図を作成し、遊び場工事が動き出しました。

② 園児達との交流

遊び場工事を始めるにあたり、当現場の作業員との交流を深めるために、園児達に本物の工事を見せました。

園児達は、レッカーでL型擁壁を設置する作業を「すごい力持ち！」などと興奮しながら見学したり、順番にバックホウに乗ったりして、満面の笑顔で喜んでいました。

これで、当現場の作業員達のモチベーションは大幅アップです。

I. レッカー作業の見学



写真-1

II. バックホウの乗車



写真-2

III. バックホウ乗車時の笑顔



写真-3

③ 遊び場工事の計画と施工

1) <計画段階での創意工夫>

1. 現場発生品や余剰品を使用して、低コストで作成する。
2. 走り回れるような単純な構造とする。
(鬼ごっこ・かくれんぼ・泥遊び・水遊びを基本とする)
3. 安全に配慮する。
4. 子供に出来上がる過程を自然に見せる。
5. 工事のおじさんはヒーローだ。
以上の点に配慮して工事を計画した。

2) <施工段階での創意工夫>

1. 工場に余っていた大型のU字溝を使用してトンネル山を造成。トンネルは職員室から直接見れる角度に設定した。
2. トンネル出入口部に簡単な岩登り体験ができるように河川用のブロックを土留代わりにした。
3. 風化侵食の進む大山をイメージした山を造成し、頂上付近に水を貯める池を設置し、そこから水を流して、自然に川ができる過程を実体験できるものとした。
4. 実際に子供たちに体験させながら、2つの山を走り回りやすい傾斜とした。
5. 良質な大山黒ボク土が現場から発生したので、どこにでもある砂場ではなく泥ダンゴ場を設置

し、子供たちに泥遊びの楽しさを実感してもらうものとした。

以上、施工を実施しながら改善及び工夫を行った。

3) <施工状況と子供達の様子>

I. 工事開始

トンネル山の造成から着手しました。



写真-1

II. 出来上がる様子もしっかりと見てもらいました。



写真-2

III. 左から、トンネル山、大山黒ボク土を入れた泥団子場、川が造れるミニ大山

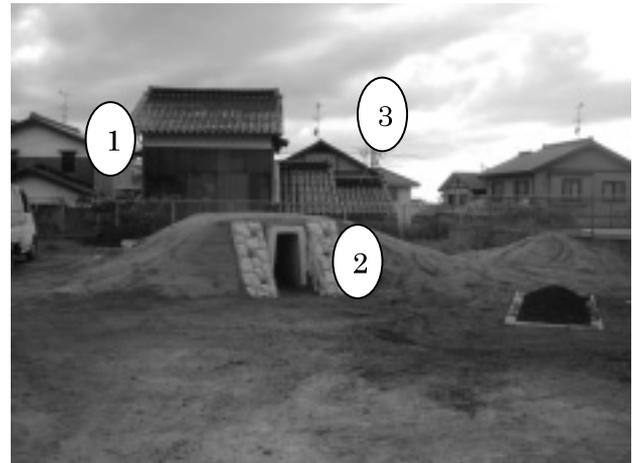


写真-3

IV. 頂上から、大山と日本海が見渡せるすてきな山が完成しました。



写真-4

④ 遊び場工事の効果について

工事は2日間で完成しましたが、材料を運んできて、機械が動いて、遊び場ができる様子を興味深く見守る子供たち、そして完成してから、はじけるような笑顔で、鬼ごっこやかくれんぼをして走り回っている子供たちを見た時点で、「本当に喜んでもらえる貢献」ができたものと確信しました。

このような活動の効果を数字であらわそうとするならば、1日あたりの外遊び時間などの比較データなどが考えられますが、今回は子供たちや

保育士の先生方の笑顔で「大きな効果あり」と判断しました。

また、当現場の効果としては、園児との交流を通じて、小さなことでも地域のお役にたてたという意識が、我々建設業者のモチベーションアップとなって現れたことがあげられます。

4. おわりに

学校の校庭や保育園の園庭は、遊具の配置や道具の置き場所を少し工夫するだけで、子供たちの外遊びの幅が無限大に広がります。

今回設置させていただいた遊び場についても、子供たちや保育士の方々の工夫次第でもっと楽しい遊び場に進化していってくれることを期待しています。

そして、保育園児が近くを通りかかると「あっ！

工事のおじちゃんだ」と言って笑顔を見せてくれます。残念ながら、私は工事が終了した時点で他府県に移動しました。しかし、園児・その保護者・保育士と我々建設業者とが繋がったことは、小さいながらも事実です。そして、今後はこの遊び場を通して、そのつながり(地域とのコミュニケーション)がさらに広がっていくことで「本当に地域の方々に喜んでもらえる地域貢献」ができたと言えるのでしよう。

将来を担う子供たちに豊かな創造力を養うための場所を提供してやれるのは、我々建設業者ではないでしょうか。大きな公園の華やかな複合遊具では創造できない、素敵な遊びの世界を、日本中の子供たちに提供していきませんか？我々建設会社の手で。

以上